

鴨の訪問

朝倉久美子

毎春我が家の庭に鴨來たる。夫の撒くパンの小片を求めてのことなり。當初は地面のパンを夫立ち去りし後に啄めるも、次第に馴れ、四、五年前には夫庭に居るも平然と食すに至りぬ。中に大膽なるものは、一米の至近距離に近づいても逃げず。やがて夫の投げたるパンを空中にて捕ふるものさへ現れぬ。幾度となく空中にてパンを捕ふるかの鳥、こころなしか得意氣に見ゆ。待機せる場所も必ず同じ木の同じ枝なり。仲間他の鳥、遠慮してか、その枝には留まらず。

二か月ほど毎日鴨の訪問續きたる後、はたと姿を見せずなるも、毎年のことなり。ただ、今年はその後に愉快なることあり。通年庭を訪るる雀ども、鴨とも共存共榮にて同じき時に庭に来ること多し。その中の一羽はチャレンジャーにて、鴨來ずなりぬる次の日、かの空中捕捉の鴨と同じ木、同じ枝に留まりて、夫の投ぐるパンを空中にて捕へんとす。無論、失敗に終はるも、その意氣やよし。雀にも個性あること、異なる種の鳥をも倣ふこと、いづれも意外なる楽しき発見なり。

(平成二十八年九月)

お手玉とチョコレート

遠藤紀子

長壽社會となれる昨今、「健康年齢」と言ふこと、よく話題となる。長壽は素晴らしきことなれど、健康ならざれば餘り意味は無し。「認知症豫防」のため「脳を活性化」せしむることの必要を新聞・雑誌・テレビ、しきりに取り上ぐ。それらの中に特に二つのことに興味を覺ゆ。

その一つ、お手玉をすること。子供の頃ごく當り前になせる遊びなり。それを一方向よりせず、右より左、左より右と交互になす。これ認知症豫防に効果あるは實驗の證明するところなり。

その二。チョコレート脳の活性化に大變有效なること。一日ココア七十パーセント含有、二十五グラムを食す。これも効果實證濟みの由。「チョコレート攝らば太る」と言ふは間違ひならむ。

お手玉により童心に返るを得。また、チョコレートは我好む食べ物なれば、これら二つは大いに關心あることなり。

(平成二十八年二月)

今年のさくら

緒方美那子

里歸りする息子の家族を大阪へと送りたる歸途、京都にて一泊す。洛北の満開の櫻を愉しむを得たり。歸京して二、三日過ぎし頃、常の散歩道を歩みたり。此の道に見事なる大木の櫻在り。その櫻の下に通りがかりたる時、彼方より來たれる人、聲を掛く。「散り始めてしましましたなあ」と。私「左様ですね」と應ふ。その御仁「寂しいなあ」と如何にも悲しげの眼にて櫻を見上ぐ。「私はこの時節の一片(ひとひら)、二片(ふたひら)と此

の石疊の上に花びらの舞ひ散る様を愉しみにして居ります。日頃の道とは變はりて雅な小徑となります故に」と申すに、御仁は「嗚呼、それはよろしい。それはよろしき事ですね。落花の雪の如くに」と心なしか晴れやかなるお聲となりて立ち去りぬ。

若き頃は觀櫻は名木を訪ぬることと思ひつものらせ居れども、街の中無名の櫻の下にて散る花を惜しむ人に出逢へたることに残るは、年を重ねたる故にこそと覺ゆ。

(平成二十八年四月)

茨城旅行

奥村淳子

三月中旬久しぶりに茨城を訪問す。大洗なども五年前の震災にては數多被害受く。特に海沿ひは被害多く一階部分水没したる家多しと聞く。されど建て直したるにや、新しき建物多き一劃散見す。水族館、海の幸など樂しみ都市部に戻る。二代目水戸光圀公發案により二百五十年かかりて完成せりといはるる水戸偕樂園に立寄る。震災後の修復も濟み、黃門様と梅娘何人もにこやかに出迎へ和やかなり。三百ヘクタール、東京ドーム六十四個分の梅園、手入れ行き届きて廣々と見晴らし良く清々し。百種類三千本ありと言ふ梅も見頃にて、白梅紅梅競ひ合ひて咲けり。香りひそやかにて好もし。平日故、混雜も無くゆるりと過ごせり。まさしく日本らしき風景なり。この平穩、平和何時までもと心より願ふなり。

(平成二十八年四月)

「夷酋列像」展

難波江 紀子

蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界

去る二月七日、佐倉市國立民族博物館の標記展覽會に赴けり。知牀半島「東側方面」メナシ地方よりクナシリ島一帯のアイヌの人々、和人の非道に耐へかね蜂起することあり。松前藩足輕はじめ七十人餘り、アイヌに殺害せられたため、松前藩鎮撫隊を派遣し、アイヌの首長達の力を借りて戦ひをおさむ。その折アイヌのツキノエやイトコイら有力なるアイヌの首長達、松前藩に協力せり。クナシリ・メナシの戦ひと稱せらる。この時松前藩主は藩に協力せしアイヌの有力者十二人の姿を藩主の弟蠣崎波響に描かせぬ。これ「夷酋列像」なり。去る一月NHKテレビ新日曜美術館にてこの繪を知り、蠣崎波響の畫人としての才と繪の素晴らしさ、その高き精神性に眞底心魅かれたり。波響は幼少の頃より圖拔けたる繪の才能に恵まれたる上に圓山應舉にも師事す。神社にもよく奉納し「祈り」を常に忘れざる由。又波響の繪は時の天皇の天覽に及びしほか、老中松平定信は後に「夷酋列像」を模寫せしめぬと。又松前藩は一時江戸幕府よりお取り上げとなりたる時期あるも波響の繪により藩は戻されたりと。

それにつけて思ふは、倉敷の大原美術館にエル・グレコの「受胎告知」あるをリットン調査團知り、この繪ある故に、今次大戦に於いて倉敷の街には爆彈投下せられず戦災を免れ、當時の面影を残すに至れり。

名畫にかくなる力あること、改めて認識するなり。

(平成二十八年三月)

時下秋冷の候、御變りなくお過ごしのことと存じ候。

川原様の時折新聞に投稿せらるる「短歌」、毎回楽しみに読み居り候。

十月七日付の新聞に載せられし六首も日常生活の様子をさりげなく表現せられ、川原様の優しきお心、手に取る如く感ぜられし作品多く候。その中の一首「若きパパ抱つこヒモにて子は胸に 手と目はスマホ ころばないでね」は、我も日頃相似たる光景を目にすること有り、常に心に掛かりし事を詠まれ、思はず心の中にて拍手致し候。その後も新しき作品を作られし事と存じ候。次回の投稿を愉しみにお待ち申し上げ候。

時節柄お身體ご自愛のほどお過ごし下されたく候。

(平成二十七年)

國語教科書

尾上 明

昨日靖國神社清掃奉仕の歸途、參道脇にて開催せられたる露店骨董市に立寄りぬ。そこに並べられたる尋常小學校の國語教科書、歸宅後氣になりぬ。一より始まり、十數巻と續けるその教科書は、どの頁を開いても明治天皇や婦女子の道など、實に立派なる内容にて、義の道、徳の道の勉強にもなる中身也。十數巻目ともならば、之を小學生が読みしものかと疑ふ如き漢字使はれ、實に立派なる文語文也。サクラサクかサクラサイタか忘れしが、吾が文語の勉強の教材にもなり得る感せり。其の場の物は痛みしもの多く、一冊三千圓と高價にて氣持ち動かざれど、一度美品を探し求め、姿勢を正し大聲にて幾度となく読み、幾度となく書き移さば、何ぞ效果のあらはれざらむと思ふ也。一から改めて國語を學びたしと冀ふ次第也。よくよく尋常小學校の教育を受けし方々の持つ品格の源泉を覗き見たる思ひする春の靖國也。

(平成二十八年二月)

同窓會

三宅 純一

卒業後六十二年を閲し、高校の同窓會本年は兩國にて催ほさる。總武線兩國驛最寄りのホテル・ロビーに集合、晝食を共にせる後、江戸時代の名所、舊蹟を散策せり。朝の天氣豫報通り、三時過ぎより小雨がぱらつくも、見學には支障なし。散策の道すがら芥川龍之介の文學碑、勝海舟生誕の地など、目立たぬやう點在するを見る。京葉道路、馬車通りの並行して走る道の中程に吉良邸跡あり。往時の吉良家上屋敷は二千五百五十坪(約八四〇〇平方メートル) 占めたるも、今「吉良邸跡」として残る本所松坂町公園は二十九・五坪(約九八平方メートル) に過ぎず。

國技館近くのこの邊りは相撲部屋も多し。往年の横綱栃木山の創設せる春日野部屋、元逆鉾の率ある井筒部屋など此處かしこに點在す。一時(ひととき) 近くの散策を経て兩國橋まで辿り著けり。隅田川の兩岸に架かるこの橋は武藏國、下總國を分かつが故にこの名を冠せられたり、と聞く。回向院に立寄り、境内にて勸進相撲を興行したる跡、嘗ての名横綱双葉山の名の刻まれし石碑等、興趣深く見學したる後、ホテルに戻る。あらためて幹事の心遣ひに感謝せる一日とはなれり。

(平成二十八年四月)